（別紙4）　　平成　27　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2191500053		
法人名	特定非営利活動法人　いこい		
事業所名	グループホーム　いこい		
所在地	岐阜県中津川市瀬戸536-2		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500053-00&PrefCd=21&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ぎふ福祉サービス利用者センター　びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地　尾関ビル
訪問調査日	平成28年1月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所は、認知症高齢者の家族が集ってつくりあげたNPO法人が運営しています。ご利用者様に対しては、ご利用者様が心理的にも社会的にも当たり前の普通の暮らしを送っていただけるような環境を作り、支援できるよう努力しています。グループホームの特徴である家庭的雰囲気を実現する為、ご利用者様を『ほっとかない』支援を行うよう職員に指導しています。このことで、認知症の方特有の不安感を少しでも和らげ、にこやかで穏やかな暮らしを送っていただきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、利用者が、安心して穏やかな暮らしができるように、生活環境を整えている。利用者の持病に対して、個別性を重視したケアにも取り組み、適切な対応で不安感を和らげ、心理症状などの改善に成果を上げている。職員の対応には、多くの家族から感謝の声が寄せられ、子ども夫婦が孫を連れての訪問も、頻回にある。毎年、ホームから、利用者の写真入り年賀状も送っている。通院は、職員が常時同行し、安心な医療を受けられるよう支え、本人、家族との信頼関係を築いている。管理者・職員は、利用者の笑顔を引き出し、住み慣れた地域の中で、その人らしい暮らしが送れるように支援をしている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは笑顔を育てます」という理念はやや抽象的であるものの、日々のケアの基本原則として職員みんなが共有できるよう努力している。どうしたら具体化できるか、職員会議や申し送り・研修の場で各々が考え、実践している。	理念は分かりやすく、明解な文言である。職員会議や研修の場で、基本姿勢として、職員に周知をしている。利用者が、住み慣れた地域の中で、ゆったりと笑顔で、自分らしい生活が送れるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として、代表者をはじめ地域の自治会活動に積極的に参加している。ご利用者様が近隣の散歩に出かけたり、祭礼に参加した際にも地域の方から気軽に声を掛けていただけている。	自治会員として、定例会や神社祭礼などに参加をしている。事業所で行う敬老会には、地域の住民を招き、ボランティアの歌や踊りを、利用者と共に楽しんでもらい、新たな交流につなげている。近隣住民から、野菜の差し入れなどがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について学び実践していることを、地域の方との会話の中で話したり、施設の見学をしていただいている。今後は相談を受けさせていただくこと等で地域に貢献してゆきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様の様子やサービスの実際について報告や話し合いを行っている。毎回活発なご意見を頂き、特に防災分野では早速取り入れさせていただいてサービス向上に活用させていただいている。	会議では、運営の実情や利用者の生活状況を報告し、意見を交わしている。重度化対応や苦情受付けの仕組み、職員の質の向上など、多様な課題を話し合い、サービスの改善に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市の主催するケアマネ部会・グループホーム部会等で情報や意見交換、助言を頂いて協力関係を築けるよう努めている。また、介護相談員を受け入れている。	市が主催するケアマネジャー部会や、グループホーム部会で、意見や情報を交換している。担当者へは、運営推進会議で実情を伝え、助言を得ている。介護事故や増床計画などでも相談し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は解放し、職員の見守りで対応している。ベッド柵や車椅子なども含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ご利用者にはできるだけ自由に過ごしていただくよう、物理的な身体拘束のみならず、心理的な拘束についても注意を怠らない様指導している。	身体拘束をしないケアを徹底している。利用者が、不安にならなように、また、穏やかに暮らせるように、生活環境を整え、笑顔で接している。帰宅願望の人には、さりげなく寄り添い、気持ちが落ち着くように、配慮をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	大多数の職員が外部研修にて虐待防止等について学び、虐待防止の見守り役として注意深く努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、特に成年後見制度について学ぶ機会を持って、日常的に活用できるよう努めてゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約または規則等改定の際には、ご利用者・ご家族に文書や口頭でお知らせするとともに十分な説明を行ってご理解・納得を頂けるよう努めている。また疑問点等の問い合わせは常時受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などは、日常的に把握できるよう言葉や表情などに注意している。ご家族からは運営推進会議や面会、電話連絡の際に伺うように努め、運営に反映させている。ご家族宛てのアンケートを実施し、より多角的なご意見・要望の汲み取りに努めている。	家族の訪問時や電話などで、意見や要望を聴いている。さらに、年に1回の家族アンケートも実施している。通院受診の付き添いで感謝されることも多く、相互信頼を築いている。要望や意見があれば、速やかに対処をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度職員会議を行い、そこで職員の意見を聴く場を作っている。現在の運営に関する取り決めはほとんど職員会議で決まったものである。代表者と管理者は必ず出席し、その場で決定できる事案については決定して反映させている。	月例の職員会議で、意見や提案を話し合っている。加えて、代表者との個人面談の機会も設けている。要望や前向きな意見を、コミュニケーションを取りながら聴き、職員の潜在能力を引き出し、運営の活性化に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状態や実績、勤務状況などを管理者からも代表者に報告している。勤務・職場環境に関する相談も代表者・管理者が受け付けている。全職員平等を旨とした就業環境を整備してきたが、今後は各自のモチベーションを高めてゆけるような施策を研究してゆきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修には実務経験のある職員から受講させている。新人職員の介護初任者研修受講や、介護福祉士受験のための支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム部会や研修会に参加し、交流作りに努めている。職員数が少ないが、出来る限り参加を促してサービスの質の向上を図る。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安・要望・思いなどを聴く機会を作ろうと、職員一人ひとりが意識してご利用者に接している。その際はご利用者に安心していただけるよう努めて笑顔で接し、大声を出すことのないように指導している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族の不安は大きいと思われる。この時点でホームとご家族、ご本人とのしっかりとした関係を構築する為、話しやすい環境をつくり、不安・困っていることなどを伺って信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、面接時にご本人やご家族から伺った情報・診断書・利用予約票などを基にアセスメントを十分に行い、ご不安の点を少しでも少なくできるような介護サービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者さんは調理・裁縫・草取りなど得意なことをそれぞれに持ってみえるので一緒に行ないながら教えていただいている。できた作品などはリビングや居室に飾り、暮らしの中に楽しみを持てるような空間作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の思い、ご家族の思いをそれぞれに伝えて橋渡しをすることを大切にしている。ご家族には相談・報告をしながら、ともにご本人を支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人など馴染みの人との面会や外泊などや、美容院等なじみの場所への外出はできうる限り支援している。	利用者の子どもや孫が訪れ、ゆっくりと過ごしている。地元の祭りや宮詣り、花火大会などに出かけている。馴染みの美容院へ行ったり、年末年始の帰宅もある。親しい関係を大切に、知人や友人への年賀状には、顔写真を載せて出せるよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の構成が変化するたびに、新たな関係の構築に腐心しているところである。みなさんが穏やかにゆったりと過ごしていただけるような環境調整に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も電話相談などがあれば対応している。特養ホームへのご退所者への現ご入居者の訪問希望を支援したりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員各々は日々のケアを通じて一人一人の思いや意向の把握をしようと努めている。把握が困難な場合、その人本位に立って職員会議や申し送りの場で検討している。	一人ひとりの思いや意向を、日々の場面で把握している。意思確認が困難な人は、表情や仕草を観察し、思いに寄り添っている。それぞれの利用者合った適切な医療と介護で、安定した暮らしにつなげている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの記録、日常会話の内容・ご家族からの情報などによって把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕の申し送りや日誌、個別記録から、一日の過ごし方、心身状態、有する力などの現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には可能な限り参加してもらっている。ご家族にはケアプランの内容を説明し、ご意見・要望をうかがっている。また、職員には個人記録票に転記しているものを常に参照させて介護計画を意識したケアの実践を求めている。	本人・家族の意向を確認し、職員や関係者の意見を踏まえて、介護計画を作成している。利用者の健康を維持し、役割りを持って、張り合いのある生活が送れるよう、本人ができることを把握し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は改善を重ねながらケアプランへの反映やケアへの見直しに努めている。 日々のケアにおいては日誌・申し送りなどで職員間で共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族の状況・ニーズに対応して、できる限り臨機応変に支援できるよう努めていきたい。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の郵便局を利用したり、運営について近所の方のご協力を頂いている。また、地域のボランティアさんによる音楽・体操・ゲーム等のアクティビティも行われている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、ご本人・ご家族の意向を伺い、決定している。定期通院についてはご家族のご意向により、ご家族にお願いしたり、職員が同行したり月２回の往診をお願いしていただいたりしている。	かかりつけ医は、本人・家族が選択している。協力医の往診体制があり、急変時の連携にも万全を期している。専門科医の通院受診は、職員が必ず同行して、本人の状態を伝え、受診結果を共有し、常に、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常生活の中での気づきや情報を協力医療機関の看護師に伝えている。必要があれば受診や看護などを実施するよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、職員が付き添って情報提供し、退院時は病院の看護師からの情報を伺ってサマリーなどの情報を受けている。この際、できる限りご家族とともに情報を聞くようにしている。病院相談員とも連絡を取り関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時、重症化や終末期に向けた方針について話をしている。ターミナルケアについて等、具体的なことは指針に則って、その場になったときに改めて協力医を含めて十分な話し合いと確認をしたいと考えている。	重度化や終末期の方針を文書化し、契約時に説明している。重度化に応じて、家族と関係者で話し合いを重ね、方針を共有している。常時、医療行為の伴わない看取りは可能であるが、これまでに事例はない。	これまでに看取り事例はないが、今後、職員のターミナルケアの技量や、メンタル面のサポートを充実させた体制づくりに期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、消防署の協力を得て、救急法・AED使用法・異物除去法などをご家族、職員、地域の方などと学ぶ機会を設けた。今後も定期的な訓練を行ってゆく方針。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難を消防署の指導により、ご家族や地域の方の参加を得て行った。今後は地震・水害対策も含めて定期的な訓練により全職員が避難法を身につけてゆくことをめざし、地域との協力体制も築いてゆきたい。	災害訓練は、火災を中心に避難訓練を実施をしている。夜間も想定し、地域の消防団OBと連携して訓練を行い、実践力の強化を図っている。毛布、ヘルメットなど防災用品を整え、食料品、飲料水などの備蓄もある。	小型発電機を備えているが、停電時に、水道が止まり、混乱した実体験を踏まえ、災害対策の改善に期待をしたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねないよう注意して言葉かけなどを行っている。プライバシーに注意しながら排せつ介助や入浴介助などを行っている。	常に、利用者一人ひとりを尊重し、誇りを損ねない言葉かけに心がけている。利用者の思いを受け入れ、行動制限をせず、受容する態度で接している。排泄や入浴介助では、特に、プライバシーの確保に努めて支援を行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のバイタルサイン測定時や、介護時などに何がしたいかを伺っている。些細なことでもいろいろな場面で自己決定できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしについていつも頭で考えながら希望を確認し、その人のペースによる暮らしを実現できるようで支援できるよう努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択や着替えなど自分で可能な方にはしていただいている。できない方には声掛けや助言しながら、その日の気分や気候に合わせた形で支援や介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の一般家庭で普段提供されているメニューを提供することを旨としている。誕生日や行事、季節に合わせたメニューや好みを伺いながら利用者と職員が一緒に準備し、食事・片付けもしている。外食も活用しつつ、五平餅やおはぎ、餃子なども楽しみながら作られている。	食事は、食べ残しがないように、個々の好みと状態に合わせながら、家庭的な味付けで調理をしている。職員も一緒に同じ食事を摂り、楽しい時間と満足感を共有している。食後は、利用者も、それぞれの役割りとして、片付けを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量は個別記録に記入している。また、栄養バランスにも留意しつつ地産地消を念頭に、楽しい食事を提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕と毎食後の口腔ケアは個々に声掛けをし、ご本人の力に応じた支援をしている。週2回歯ブラシ・コップなどの消毒を行っている。舌や口腔内の清潔保持のための支援を心がけている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に一人ずつ記録し、体調や排せつパターンを把握し、パットやおむつの使用量を減らし、排せつの自立に向けた支援ができるよう努めている。	排泄は、自立の人が多く、職員は見守りに努めている。介助の必要な人は、排泄パターンやサインに応じて、トイレへ誘導している。日中は、リハビリパンツで過ごし、夜間は、個々に合ったおむつを選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応には、原因を理解するよう努め、食事や運動など、個々に応じた対応をしている。また、機能性食品の利用による下剤の使用抑制にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の力や希望に応じて入浴ができるよう心掛け、安全に・楽しく入浴できるよう努めている。月曜日から土曜日まで、週3回ずつ入浴されている。	入浴は、個々の希望に合わせ、心地よい入浴となるように配慮をしている。拒否の人には、気分のタイミングを図りながら声かけしたり、気の合う人に誘ってもらったりして、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は定めていない。個々にお部屋で過ごしていただき、就寝していただいている。日中の休息も体調に応じたり、その時々の状況で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用については、薬局の説明書を個別記録とともにファイルしていつでも確認できるようにしている。服薬管理・介助により、確実な服薬を確認し、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活や力を生かし日々の役割の中で張り合いを感じられる支援、そして嗜好や趣味、特技などをつかみ日々取り入れることで、喜びの時間や気分転換などの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの店へ買い物外出や近所への散歩等で日常的に外気に触れていただけるようにしている。ご利用者全員の外出の実現を目標にし、外食や紅葉狩りへ出かけている。ご本人の希望でいろいろな外出支援をご家族の協力も得ながら行っている。	周辺には、複数の散歩コースがあり、日替わりでコースを選び、出かけている。近郊のドライブや買い物、花見、紅葉狩りなど、外出の機会を多く設け、個別外出の希望には、家族の協力を得て支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお金の管理をしている。ご希望によって少額の現金をご自分で管理し、商店で買い物をしていただいている。また、正月に孫へのお年玉をとの希望があり、渡したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望によりご利用者様自らがご家族に電話されるときは支援し、安心につながっている。手紙のやり取りについても支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には玄関、リビングなどに花を活けたり、壁にリースや手芸品を飾り、季節感や家庭にいる雰囲気を作り出すよう努めている。エアコンや床暖房により住環境を整えている。また、乾燥時の湿度管理には特に気を配っている。	共用の間は広く、天窓から陽光が注ぎ、窓越しに竹林が見えている。壁には、絵画や壁飾り、手づくり作品、写真集を掲示している。みんなで寛げるソファーを配置し、大型テレビを前に、居心地よく過ごすことが出来る場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のリビングではソファーのお気に入りの場所に座られたり、話がしたいと思った方のところへ移動されて過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の防炎カーテンはご本人の好みのものを使っていただいている。使い慣れた鏡台や整理タンス、ご家族の写真、テレビ、位牌などを置いてみえる。施設側は特に持ち込まれるものについては制限していない。	表札は、太字で、利用者目線に掲示し、見当識障害に配慮をしている。居室には、防炎カーテンを用いている。利用者の使い慣れたものを、自由に持ち込み、家族の写真やなじみの品々を身近に置き、安心できる居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分からなくなる方には入口にわかりやすい目印をつけて、トイレの帰りなどにも迷わず、戻っていただいている。トイレは常夜灯をともし、またトイレ入口も他と区別できるようにしている。		